

(注) J R ウォーク開催数には中止を含む (H14=2回、H15=1回、H16=2回、H17=1回、H19=1回、H20=2回)

(1) J R 西日本

JR西日本の協力を得て、自治体、NPOの主催により「なぎさ海道」ウォークを実施し、チラシ、ポスターになぎさ海道のシンボルマークを掲載した。

JR西日本の「なぎさ海道」ウォークとして合計18コース、総数1,670人の参加者があった(前頁表参照)。

(2) 南海、阪神、山陽電鉄

南海・阪神合同主催の「なぎさ海道」ウォーク並びに五私鉄(阪急・阪神・南海・京阪・近鉄)合同主催のリレーウォーク、南海、阪神、山陽の各電鉄主催の臨海部を歩くハイキングに後援し、案内などに「なぎさ海道」シンボルマークを掲載した。

(3) その他

財団法人泉佐野市公園緑化協会主催の「バイエリアの緑★再発見」を後援し、案内に「なぎさ海道」シンボルマークを掲載した。



各電鉄会社のなぎさ海道ウォーク掲載パンフレット

4. 「なぎさ海道」市民活動の支援

従来、実施していた「なぎさ海道」フォーラム及び市民活動ネットワークなどの事業をさらに発展させたものとして、「なぎさ海道」事業の理念にかなう市民団体などの諸活動に対し助成金を交付した。

平成20年度の応募件数は、13件で、うち5団体に対し助成を行った。

(1) 過去の助成金交付数ほか

区分	応募件数	助成件数	助成額(千円)
17年度	14	6	1,981
18年度	17	6	2,000
19年度	14	5	1,686
20年度	13	5	2,000

(2) 平成20年度市民活動助成団体交付先

① 特定非営利活動法人アマモ種子バンク（兵庫県西宮市）

「なぎさ海道」アマモ場再生プロジェクト

播磨灘、大阪湾そして紀州灘を結ぶ「なぎさ海道」沿岸部に沿ってアマモ場を子ども達の環境体験学習や地域住民の市民活動として造成する。これによって、沿岸部の流れに乗ってアマモ種子が各地に供給されるようになり、アマモ自身の生命力を活かして「なぎさ海道」のアマモ場を再生する。

② 特定非営利活動法人尼崎21世紀の森（兵庫県尼崎市）

「うんぱく！2008」— 運河への理解促進とにぎわいの創出

わが国の高度成長を支え、整備が進められて、魅力的な水際空間に変わりつつある尼崎の運河地域を、環境教室や各種イベントを通じて、広く市民にアピールし、防災面を含めた海辺への理解促進とその活性化を図る。

③ きしわだ自然友の会（大阪府岸和田市）

大阪・和歌山ベイエリアキャラバン・こんなに面白いなぎさ海道

大阪湾のベイエリア環境と海域のすばらしさを、生息している貴重な生物や地質から理解してもらえよう、一般向けの観察会や実習会を実施するほか、それらの成果を知ってもらうための周知活動を行う。

④ 国立公園成ヶ島を美しくする会（兵庫県洲本市）

大阪湾漂流ゴミおよび成ヶ島漂着ゴミの実態調査

豊かな自然環境を有する成ヶ島では、漂着ゴミの量が年々増え続けている。この漂着ゴミの元を断つ努力を促すため、ゴミの漂流経路の追跡調査および漂着ゴミの種類・量調査により、ゴミ漂流の実態および漂着ゴミの実態を明らかにする。

⑤ 近木川流域自然大学研究会（大阪府貝塚市）

海の幸から大阪湾を見る子ども交流会とフォーラム

子供を対象に地引網体験や近木川の見学、少年自然の家での宿泊体験と共に、海・山・川をテーマにワークショップを行う。後日、大人を中心とした「海と人とのいい関係、海・山・川」をテーマにフォーラムを開催する。

(3) 平成19年度市民活動助成団体報告会の開催

平成19年度「なぎさ海道」市民活動助成団体報告会を平成20年度の「なぎさ海道」推進会議に引き続き開催し、各団体の代表者から活動実績について報告を頂いた。

- 1 開催日 平成20年7月31日（火）
- 2 開催場所 大阪府立国際会議場
- 3 報告団体 5団体



兵庫運河真珠貝プロジェクト

尼崎 21世紀の森

由良・生石研究村運営協議会



垂水生活文化協会



国立公園成ヶ島を美しくする会

5. 「なぎさ海道」の広報

(1) 広報誌、ホームページの活用

「なぎさ海道」に関する情報を、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構の広報誌「O-BAY」やホームページに掲載するなど、「なぎさ海道」の積極的な広報活動を推進した。

(2) イベント等における「なぎさ海道」パネル展示等

「なぎさ海道」に関連するイベントにおいて、パネル展示やパンフレットの配布等を行い「なぎさ海道」の紹介に努めた。

①行事名：講演会「臨海部の新たな展開～21世紀の環境先進地域～」

期 間：平成21年2月23日（月）

場 所：リーガロイヤルホテル堺



②行事名：「第5回ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」

期 間：平成21年2月28日（土）

場 所：海遊館



6. 「なぎさ海道」に係る政策提言

平成20年9月「大阪湾ベイエリア開発整備」の提言として、「なぎさ海道」におけるパブリックアクセス整備の充実を提言した。



4. 「なぎさ海道」におけるパブリックアクセス整備の充実

<目指すべき姿>

- ・人々が大阪湾とふれあい、楽しむことができるように、大阪湾の水際線全体で取り組む緑、水辺、ビューポイントなどの拠点整備と景観整備、さらにこれら拠点を結ぶ遊歩道や自転車道などによる広域的・有機的ネットワークの形成を図る。
- ・人々と大阪湾とのふれあいを遮断している水際線については、可能な限り、人工海浜の整備、緩傾斜護岸の活用、水際プロムナードの整備、海洋性レジャースポットの整備により、公共への開放を推進する。

<現状>

- ・平成9年度以降18年度までの10年間で、大阪湾ベイエリアの沿岸自治体52のうち28自治体がパブリックアクセス整備を進めた一方で、半数弱の24自治体が未整備となっている（「平成18年度「なぎさ海道」におけるパブリックアクセス確保に関する調査」）。
- ・平成19年度以降にパブリックアクセスの整備を予定している自治体は、全体の1/4程度の14団体に過ぎず、その大半が過年度からの継続事業で、新たな整備は少ない状況にある（同調査）。

<課題・問題点>

（水際線の開放と整備）

- ・一般市民が近づくことができる水際線が少なく量的拡大が必要。
- ・既に開放されているところでも、歩車分離、トイレ、休憩施設整備、バリアフリー対応等の質的向上が必要。

（アクセスの整備）

- ・開放水際線と後背都市圏との間の交通アクセス整備による「近づける水辺」の創出が必要。
- ・点的に存在する開放水際線をつなぐとともに駅等の基点とのネットワークによる回遊性確保が必要。

<対応案>

- ・人々が海辺へ至るための道路等の手段、および、その海辺で憩い遊ぶことができるような海辺環境を包括した概念であるパブリックアクセスを早急に整備するため、密接に関わりを有しているなぎさトレイルやなぎさ拠点及びそこに至る道路が一体的に整備されるよう、補助制度をはじめとする支援の充実を図る以下のような対応を求める。

①水際線を開放した企業や拠点整備を行った企業に対するインセンティブの付与（補助制度の新設）。

②パブリックアクセスの観点から整備の優先度を上げること。



「なぎさ海道」の対象エリア

19

20

7. 「なぎさ海道」における整備状況調査

パブリックアクセスの基本データである大阪湾ベイエリアの水際線の土地利用や親水性の実態については、平成3～5年度、平成10～11年度の2回の調査以降実施されていないことから、航空写真などを活用することにより、大阪湾ベイエリアの水際線土地利用と親水性の実態調査を実施した。

さらに、比較的近年に整備が行われた特徴的なパブリックアクセスの整備事例について、施設概要や事業手法などをまとめた整備事例集を作成した。